

特定計画を推進するための 基本的なポイント

(一財) 自然環境研究センター 常田邦彦

特定計画とは何か（なぜ作るのか）

- 特定計画の真髄は、計画性と科学性にある。
- それを保証して行く手法としての順応的管理（PDCAサイクル）。
- 計画的・科学的管理を進めることが、結局は最も効果的で成功する可能性が高い。また社会や政治に対して最も説得力のある説明ができる。
- 鳥獣法における捕獲規制緩和のメリットはおまけ。

ポイント1 PDCAサイクルのチェック

- 順応的管理とは、十分な知識や情報がないもので物事を進める手法。

仮説に基づく目標設定と計画（Plan）

実行（Do）

モニタリング・評価（Check）

計画修正・改善（Action）

このサイクルのどこにどのような問題があるかを
具体的にすることが必要

ポイント2 種別の基本的・一般的課題

- シカ : 密度低減, 個体数低減
→ 捕獲数拡大 (効率向上と労力の拡大・確保)
- イノシシ : 被害防除
→ 被害防除・被害防除の一方法としての捕獲 (耕地周辺での捕獲), 個体群管理としての捕獲のあり方?
- クマ : 人との軋轢の軽減
→ 出没対応 (知識の普及と対応体制→現場の専門家), 捕獲のコントロール
- サル : 被害防除と群れ管理
→ 被害防除の徹底, 個体群コントロールの目標明確化と必要な形での捕獲の徹底

ポイント3 目標の明確化と行動の具体化

- 自分たちの現状と課題を明確に (地域によって問題や対応レベルは様々)
- 目標の明確化 (当面, 中・長期)
- 目標を達成するために何から手をつけるべきかを考える
- 行動 (施策) の具体化
 - 必要ならばポイントとなる突破口・重点をいくつか絞る

ポイント4 調整と専門家

- 組織間・地域間の調整 (形式ではなく実質がよりうまく行くように)
- 様々な形での専門家の関与
 - → どのような専門家がどのポジションで
 - → どのような役割を果たすか?
- 日本の行政システムの下での行政官の役割
 - → 専門家としての行政官
 - → 人事のあり方 (複数体制, 任期を倍に)